

予算常任委員会総務分科会

(平成27年2月23日)

○ 森 康哲委員長

それでは、総務常任委員会を開会いたします。

それでは、政策推進部長からご挨拶をお願いします。

○ 館政策推進部長

失礼します。

一般質問の合間を縫って先議をいただくことになりました。総合戦略に係る分につきましては、早急に議決を賜って国のほうに交付申請を出していくと、そういったスケジュールの関係から先議をしていただくこととなっております。

政策推進部といたしましては、地方創生の総合戦略の策定経費、これについてご審議をいただくこととなります。どうぞよろしく願いいたします。

○ 森 康哲委員長

傍聴には報道関係の方が1名お入りいただいております。

議案第131号 平成26年度四日市市一般会計補正予算（第7号）

第1条 歳入歳出予算の補正

歳出第2款 総務費

第1項 総務管理費

第8目 企画費

第2条 繰越明許費（関係部分）

○ 森 康哲委員長

それでは、議案第131号平成26年度四日市市一般会計補正予算について、第1条歳入歳出予算の補正、歳出第2款総務費、第1項総務管理費、第8目企画費について及び第2条繰越明許費（関係部分）について資料の説明を求めます。

○ 服部政策推進部次長兼政策推進課長

失礼いたします。服部でございます。

それでは、補正予算（第7号）の政策推進部に係る部分につきましてご説明申し上げたいと思います。補正予算書につきましては、14、15ページになります。総務費の総務管理費の企画費でございます。

説明につきましては、平成27年2月定例会議会2月補正予算参考資料（第7号）という、済みません、一連の議案聴取会でお配りさせていただきました資料でご説明させていただきたいと思います。平成27年2月定例会議会2月補正予算参考資料（第7号）をお願いいたします。

7ページでございます。よろしいでしょうか。

まち・ひと・しごと総合戦略策定経費でございます。少子高齢化及び人口減少に伴う地域社会の諸課題に対処し、いわゆる地方創生を推進するために、平成26年に制定されました、まち・ひと・しごと創生法によりまして、市町村は、市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略、いわゆる地方版総合戦略を定めるよう努めなければならないとされたところでございます。本市におきましても少子高齢化の進展は例外ではなく、少子化に歯どめをかけ、定住人口及び交流人口の増加を図る施策を実施し、地域の活性化を図っていくための効果的な戦略を策定していく必要があります。

そこで、今回でございますが、国の緊急経済対策に基づく補正予算で交付されます地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金を活用いたしまして、四日市版の総合戦略、まち・ひと・しごと創生総合戦略策定経費600万円を計上させていただくものでございます。

総合戦略策定に当たりましては、人口推計はもとより総合計画を初めとする既存諸計画との整合の検討や先進事例調査を経て、戦略を策定してまいりたいと存じます。

また、今回、経済対策による平成26年度2月補正予算としてお願いするものでございますので、全額翌年度に繰り越して使用するための繰越明許費もあわせて計上させていただくものでございます。補正予算書につきましては、8ページ、第2条繰越明許費の部分になります。よろしく申し上げます。

また、本日でございますけれども、議案聴取会の際に追加で請求いただきました資料でございますが、2月補正予算（第7号）参考資料（追加）というのを本日、済みません、議場のほうで配付させていただいたと思うんですが。

○ 森 康哲委員長

ない方、事務局が用意しておりますので。

○ 服部政策推進部次長兼政策推進課長

済みません、ちょっとご説明をさせていただきたいと思います。

1 ページでございますが、総合計画と地方版総合戦略との関係ということでございますが、総合計画は長期的な展望に立って本市の目指すべき将来像を描いた上で、そのまちづくりの実現に向けて総合的かつ計画的に取り組んでいく基本となるものでございまして、本市のまちづくりの方向性を示す全体的な計画となっております。

一方、地方版総合戦略、今回策定していくものにつきましては、人口減少克服、地方創生を目的として、まち・ひと・しごと創生に向けた取り組みを取り出して、まち・ひと・しごと創生に関する施策についての基本的な計画としてまとめるものでございまして、まち・ひと・しごと創生に向けた基本目標、基本的な方向と具体的な施策を定めるものでございます。総合計画につきましては、期間が平成23年度から平成32年度ということになってございますが、今回の地方版総合戦略につきましては、平成27年度から平成31年度の5カ年という計画として策定させていただくものでございます。

続きまして、2 ページでございますが、今回、地方版総合戦略を策定するに当たりまして、地方人口ビジョンというものもあわせて策定していくということで、まず、地方人口ビジョンを策定した上で、それを踏まえた上で地方版総合戦略を策定するというふうな流れになってございます。そこで、地方人口ビジョンの策定のイメージでございますが、地方人口ビジョンにつきましては、まず人口の動向分析をそれぞれ過去の状況に基づいて行います。その上で将来人口の推計と分析ということで、出生率や移動率などについての仮定値を変えた場合にどのように人口に対する影響があるのかというのを将来推計として分析いたします。そして、人口の変化が地域の将来に与える影響を分析、考察ということで、現状の傾向のままで人口が推移した場合の市民生活や経済に対する影響などについての分析もここでさせていただく。その上で人口の将来展望ということで、将来展望に必要な調査、分析、まず将来展望の分析に係る住民の意識調査みたいなものをさせていただきまして、住民の結婚とか出産、子育てなんかの意識調査とか、あるいは、大学の就職状況など、地元のそういったものの調査をさせていただいて、そういうものがどういうふうに影響するんだというのをまず分析させていただくと。そして、目指すべき将来の方向ということで将来の施策の方向性をまず出して、そして、その上で人口の将来展望ということで何%

の出生率になった場合はどれぐらいの人口になるのか、あるいは、社会増がどれぐらいになった場合にどのように将来人口に影響するんだというようなことの将来展望を出させていただいて、施策の効果によって人口減少がどれぐらい抑えられるのか、あるいは、若年人口の割合をどれぐらい高められるのかみたいなところを推計として今回人口ビジョンとして策定させていただくというようなイメージでございます。

済みません、ちょっとなかなか読んだだけで申しわけないんですが、そういうような形でさせていただきたいというふうに考えてございます。

以上でございます。

○ 森 康哲委員長

説明はお聞き及びのとおりでございます。

質疑がございましたら、ご発言をお願いします。

○ 樋口龍馬委員

よろしくをお願いします。

7ページの中で、既存諸計画の検討というふうにあります。そこはどこで検討しているんですか。政策推進部で検討していくということではないのでしょうか。

○ 館政策推進部長

基本的には、我々が引き続き検討していくつもりでございます。一部どうしても外部の手を借りやんならんというときには委託などをさせていただくかもしれませんが、この計画の検討は職員でやっていけるものだと思っております。

○ 樋口龍馬委員

せつかくつくらなきゃいけないといって人口推計からやり直すというところですので、どこで検討していくのかとか、進捗を管理していくところが重要になってくると思いますので、そこはしっかり行ってほしいと思うし、場合によってはというよりも積極的に民間の力も借りていったらどうかなというふうに思いますので、枠組みは四日市市として決定していけるんですよ。

○ 館政策推進部長

先ほど人口の推計ということも説明させていただきましたが、これはあくまで、まず5カ年の計画でございますので、総合計画の枠の範囲内で、枠の範囲内と言ったらおかしいですけど、それにつけ加えるような形でいくということになろうかと思えます。例えば、人口推計については先ほど次長が説明しましたように、将来のビジョンとしては持ちますけれども、これは相当長期の、2060年とここに書いてあります。相当先の展望のようなもので、それを、いわゆる計画として決定するようなものではないというふうに考えを持っております。今の総合計画は人口のフレームというものを、推計はしておりますが、持っておりません。2020年に何人ということを設定しているわけではないんですけれども、今回のものは国のほうからの一つの枠組みとして2060年、相当長期なんですけど、その頃の部分まで推計をして、そのときに人口がぐっと落ちないように今のうちから、まず5カ年の取り組みとして施策を打っていくということでございます。その部分を一生懸命これから、今ご指摘いただきましたように民間の知恵を借りるとか、力をお借りしながら、職員も一生懸命頑張って策定していきたいという思いでございます。

○ 樋口龍馬委員

先般の毛利委員の一般質問の中にもあったんですけど、人が足りるのかというのもすごく心配になるところですので、そういった要求まで含めて全部予算の中に上がっていればいいんですけど、そういう予算じゃないですもんね。なので、足りないところはしっかり補っていただくような仕組みづくりをしていかなきゃいけないと思いますので、その辺強く要望させていただきます。

以上です。

○ 森 康哲委員長

他にございませんか。

○ 山本里香委員

質問です。

7ページのことは、この全体の交付対象事業の全容の3ページに二つのタイプの中で提案されているというか、提示されている中の下の段のところの①そのものなわけで、これ

は必須なので、だから、これはこれとしてしなければいけないこととして四日市市で取り組みますが、ここに、例えば①から⑦までほかの部署のところで担当があるわけですが、これ以外のもの例えばということは絶対だめなのかというか、例えば幾つかの、それぞれ②、③、④、⑤、⑥、⑦についてもほかでも提案されますけど、その中でも細かなきつとパターンというかメニューの細かいものも提案されている中で、多分ほかの部署ではそれをその中から選んできていると思うんです。

私たちのここで扱う部分の①としては、もうこれだけしかここに書かれていませんよね。取り扱える部分というのは、ほかには皆さんの中ではなかったということですかね。この事業は政策推進部一手ですとして、そういう意味です。

○ 館政策推進部長

今回、お示ししている3ページの②から⑦、これは補正予算の中で先行的に実施する場合の枠組み、この②から⑦のところはいろんなことを考えて、今回の補正で上げていくというものでございます。

地方総合戦略は、この②から⑦だけではなくて、もっと幅広く、計画としては立てていけることになっておりまして、例えばその中に新たな事業を盛り込んで、平成28年度の当初予算のほうで、国のほうから交付金をいただけるようにこれから頑張っていくと、そういうことになります。

○ 山本里香委員

これは先行ということで、ここでは取り扱えないけれども、①についてのこの幅は、これからこれが成長して行って平成28年度につながっていくと。今回の補正予算として、この四日市市として、政策推進部で扱える部分はもうこのことのみということでよろしいんですね。具体的に、このことね。

○ 館政策推進部長

扱えるというか②から⑦の事業を政策推進部で何か起こしていくということも可能ではありますが、たまたま各部局で今散らばってやっているということでございます。

○ 山本里香委員

わかりました。それぞれは細分化された専門のところがあるのでということですね。包含はされているけれども、今現在、政策推進部で大きくするのはこれだけということですね。ありがとうございました。

○ 森 康哲委員長

他にございませんか。

(なし)

○ 森 康哲委員長

他にご質疑もないようですので、これより討論に移ります。

討論がありましたら、ご発言願います。討論はございませんか。

(なし)

○ 森 康哲委員長

討論はないようですので、それでは採決を行います。

特段反対討論もございませんでしたので、簡易採決とさせていただきます。

それでは、議案第131号平成26年度四日市市一般会計補正予算について、第1条歳入歳出予算の補正、歳出第2款総務費、第1項総務管理費、第8目企画費について及び第2条繰越明許費（関係部分）について、可決すべきものと決することにご異議ございませんか。

(異議なし)

○ 森 康哲委員長

ご異議なしと認め、本件は可決すべきものと決しました。

[以上の経過により、議案第131号 平成26年度四日市市一般会計補正予算（第7号）、第1条歳入歳出予算の補正、歳出第2款総務費、第1項総務管理費、第8目企画費及び第2条繰越明許費（関係部分）について、採決の結果、別段異議なく可決すべ

きものと決する。]

○ 森 康哲委員長

それでは、次の議案に移りたいと思いますので、理事者のほうは入れかえを行ってください。

それでは、財政経営部所管部分の審査に入りたいと思います。

まず、部長よりご挨拶をお願いします。

○ 内田財政経営部長

財政経営部長の内田でございます。

○ 森 康哲委員長

座ってください。

○ 内田財政経営部長

議案第131号の私どものほうは歳入全般についてご審議いただきますので、どうかよろしくお願いいたします。

説明は担当課長のほうからさせていただきますので、よろしく申し上げます。

○ 森 康哲委員長

それでは、議案第131号平成26年度四日市市一般会計補正予算について、第1条歳入歳出予算の補正、歳入全般について資料の説明を求めます。

議案第131号 平成26年度四日市市一般会計補正予算（第3号）

第1条 歳入歳出予算の補正

歳入全般

○ 荒木財政経営課長

財政経営課、荒木と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私のほうからは、歳入全般ということで、補正予算書につきましては12ページから13ペ

ージとなってございますが、説明につきましては概要のほうをお願いしたいと思います。

概要の2ページをお願いいたします。1枚ぺらですね。よろしいでしょうか。

歳入についてでございます。

まず、第10款地方交付税の普通交付税でございますが、国の予算額との調整によりまして、算定額から調整されておりました3891万3000円につきまして、今回経済対策ということで追加交付を受けることになりましたので、今回の補正予算第7号の収支均衡を図るために、3891万3000円のうち1917万6000円を計上いたしてございます。

また、第14款国庫支出金といたしましては、地方創生先行型、10分の10でございますが、7422万4000円、その下でございますが、地域消費喚起生活支援型10分の10でございますが、1億8676万6000円、合わせまして2億6099万円を計上いたしてございます。

また、歳入の合計といたしましては、2億8016万6000円を計上いたしてございます。

それと、今回、国庫支出金が2本ございますが、それぞれの交付限度額の算出につきまして、本日、議場のほうに配付させていただきました参考資料の（追加）というものを提出させていただいてございますもので、そちらのほうの3ページをお願いいたします。

3ページでございますが、まず、地域消費喚起生活支援型ということで、本市はプレミアム商品券に活用しようというものでございますが、この算定式でございますが、人口にA、B、C、 α を乗じる算式というふうになってございまして、人口につきましては平成22年国勢調査に基づく30万7766人と。

続きまして、係数Aにつきましては財政力指数に基づくものでございまして、財政力の弱いところほど係数が上がり、多く交付されるというものになってございます。

次に、係数Bでございますが、aとbとございまして、aにつきましては小売年間販売額、サービス業対個人事業収入額、人口とそれぞれ平成24年の経済センサス調査、あるいは平成22年の国勢調査に基づくものでございまして、bにつきましては現金給与総額ということになってございまして、このa、bの係数につきましてはいずれも三重県の値を使用するというものになってございますことから、三重県内の市町はそれぞれ同じということになってございます。

また、係数Cにつきましては寒冷の差によります級地区分となってございまして、本市の場合につきましては1.0というふうになってございます。こちらにつきましては、寒いところほど多く交付されるというものでございます。

最後に α でございますが、国の予算との調整を図るための係数でございまして、こちら

Aから α までそれぞれの係数を全て乗じまして1億8676万6000円という限度額になってございます。

次に4ページをお願いいたします。

地方創生先行型の算定式、これにつきましても、人口にそれぞれの係数を乗じて、最後に定額でございますDを加えるというものになってございます。同様に、人口は30万7000人余と。

係数Aにつきましては、太枠のところの算定式を用いまして0.785と。

係数Bにつきましては財政力指数でございまして、消費喚起生活支援型と同様に0.21と。

続きまして、係数Cにつきましてはa、b、cを加算いたしまして算定するものでございまして、それぞれ15歳以上就業者数、15歳以上人口、転出者数人口比率、15歳未満人口というものからまとめるものでございまして、失業者が多く、転出者も多い、あるいは、15歳未満の人口が少ないところほど係数が上がりまして、こちらも多くもらえるという算式になっております。同様に、人口にA、B、C、 α まで乗じたものに、地方版総合戦略の策定経費でございますDの1000万円を加えた7422万4000円が交付限度額というものになってございます。

雑駁ではございますが、説明につきましては以上でございます。よろしくをお願いいたします。

○ 森 康哲委員長

説明はお聞き及びのとおりでございます。

ご質疑がございましたら、ご発言願います。

ご質疑ありませんか。

(なし)

○ 森 康哲委員長

特段、ご質疑もないようですので、これより討論に移ります。

討論がありましたら、ご発言願います。

(なし)

○ 森 康哲委員長

討論もないようですので、採決に移りたいと思います。

反対討論もございませんでしたので、簡易採決とさせていただきます。

それでは、議案第131号平成26年度四日市市一般会計補正予算について、第1条歳入歳出予算の補正、歳入全般について、可決すべきものと決することにご異議ございませんか。

(異議なし)

○ 森 康哲委員長

ご異議なしと認め、本件は可決すべきものと決しました。

[以上の経過により、議案第131号 平成26年度四日市市一般会計補正予算（第7号）、第1条歳入歳出予算の補正、歳入全般について、採決の結果、別段異議なく可決すべきものと決する。]

○ 森 康哲委員長

それでは、本日の事項は全部終了いたしましたので、これにて委員会を閉会します。お疲れさまでございました。

13：55閉議